

令和8年度 教育改革提案審査会 資料（案）：全学データサイエンス基礎教育の全学展開

2026年2月28日
〇〇大学 教育推進機構 准教授 高橋 美咲（教育改革委員）
※学内限

1. 現状と課題認識

【現状】

初年次向け情報リテラシー教育は各学部・部局に委ねられており、内容・レベルに大きな差がある。

高度なDS科目の履修者は全体の12%に留まり、特定学部に限られている。

【課題】

- 全学的な到達目標（スキルセット）の標準化が未達成。
- 演習環境（Python実行基盤等）の整備状況に格差。
- 専門教員の負担過多およびTA育成システムの未整備。

2. 提案内容：共通科目「DS基礎I/II」の設置

(1) **カリキュラム刷新**：全1年生を対象とした必修科目として再編。オンデマンド講義+対面演習のハイブリッド形式を採用。

(2) **基盤整備**：LMS(Moodle)と自動採点システム、クラウド型JupyterHub環境の統合運用。

(3) **教材開発**：学内・他大学と連携し、CC BYライセンスで標準教材を共同開発。

(4) **TA制度**：「DS・TA認定制度」を創設し、大学院生への教育訓練と待遇改善を図る。

3. 実施体制と役割分担

組織	主な役割
教育推進機構	カリキュラム設計、教材開発統括、全学FDの実施
各学部・研究科	クラス編成、演習担当教員の選出、TA推薦
附属図書館	学修支援（ラーニングコモンズでの相談対応）
情報基盤センター	演習環境（サーバー・ネットワーク）の構築・保守

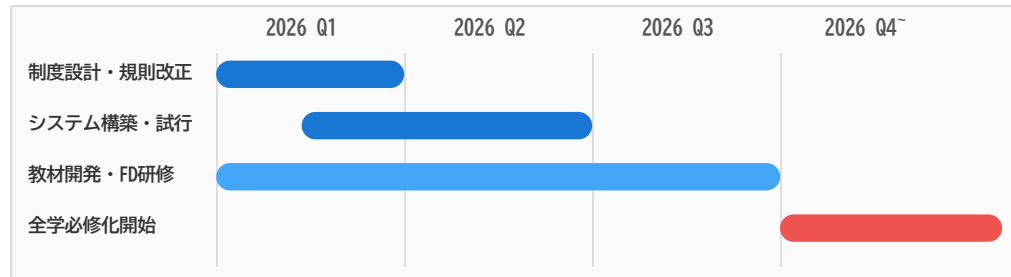
※ 予算詳細・人件費内訳については、別紙資料「財政計画書(No.3)」をご参照ください。

※ 実在の研究者や研究内容とは一切関係ありません。

4. 重要業績評価指標（KPI）

指標項目	現状（2025）	2026年度目標	2027年度目標
全学履修率	12%	80%（先行導入）	100%（必修化）
単位修得率	-	90%以上	95%以上
標準テスト平均点	65点	70点	80点
認定TA数	10名	40名	80名

5. 実施スケジュール



6. 想定リスクと対策

リスク①：教員の負担増による研究時間圧迫

→ 対策：標準教材の導入による準備時間削減、およびTA配置数の増員（学生20名につきTA1名）による指導補助の徹底。

リスク②：演習システムへのアクセス集中による障害

→ 対策：クラウド環境のオートスケーリング設定による冗長化、および演習時間の分散割当。ヘルプデスクの設置。